

ホンの一部分のみを書いても、それが、年であるか、月であるか、日であるか、又は、時であるか、分であるか、秒であるかが、一目して明瞭に知られることである。現に—11—25と書けば之れは十一月25日のことであり、1940—と書けば之れは年を表はすこと勿論である。又、28, 12:と書けば之れは28日12時を意味し、:28:12と書けばこれは28分12秒を表はす。單に:25.3と書いても慣れば直ぐ之れは25.3の意味であることが知れる。天體の觀測中など、又、其の他いろ々の研究記録中にも、かうした略記方法によつて便利を獲てゐる所が多い。讀者各位の試みられんことを望むものである。(1942—12—2田上にて)

問 答

問ひ： 昭和18年一月の朔は何日か？ 渡邊敏夫氏著“曆”によれば第8表エバクト表より一月7日朔となつてゐる。然るにカレンダー(本年度分)によれば一月6日朔となつてゐる。右1日の違ひは“曆”によれば有り勝ちの向なるも、カレンダーの6日朔なるは、計算より出したるや、詳細御教示願上ます。(河村生)

答へ： 本年(1943年)は一月6日が朔の日です。その他、二月5日、三月6日、四月5日、五月4日、六月3日、七月2日、八月1日、同31日、九月29日、十月29日、十一月28日、十二月27日が皆朔の日となつてゐます。(P)

問ひ： 平山清次著“曆法と時法”68頁には“復活祭日は三月22日から四月26日の間に動き”とあり、渡邊敏夫著“曆(こよみ)”には“三月22日から四月25日”とあり、何れが正しきや。

答へ： 四月25日の方がよろしい。(C)

問ひ： 荒木俊馬著“天文と宇宙”9頁に、“カルデアの昔には、カペラと言ふ星が、日没に東の地平線から上るのを以て年の始めとした”とあり、“天文”(昭和13年新年號)23頁には“バビロンでは暁方にカペラ(Capella)が東天に見えるのを以て年の始めとし、”とあり、何れが正しきや。

答へ： “天文と宇宙”の記事の方が正しいのです。但し、この時代の一月は秋に始まつたのでした。(Q. S.)

問ひ： “満月”と“十五夜”と“舊曆15日”との差異御教へ下さい。(徳島 F 生)

答へ： 満月とは、月が太陽と正反對の位置になる時刻で、つまり太陽の黄經と月の黄經とが 180° だけ違ふやうになつた時刻です。例へば、これは昨年(昭和17年)九月24日23時24分でした。しかるに新月は九月11日0時53分で、之を舊曆の八月朔(元日)とするのですから、舊15日は九月25日となります。故に“十五夜”は九月25日です。年鑑(天界247號)を見れば、すべて明瞭な筈です。(K)